

H28 にんじん大規模栽培マニュアル (簡易版)

1 ほ場準備

(1) 前作残さの腐熟促進等

前作が大麦、野菜等の場合は、残さの腐熟を促進するため、石灰窒素を 10kg/10a (窒素成分で 2 kg/10a) 散布する。

(2) 雑草の処理

前作終了後に雑草が繁茂した場合は、ラウンドアップマックスロード又はバスタ液剤等で枯殺してから、畝立てを行う。

(3) 排水対策

にんじんは、畝間に水が滞留すると短根、岐根となるため、必ず、額縁排水溝と弾丸暗渠の設置を行う。



額縁排水溝の設置



弾丸暗渠の設置

2 施肥・耕起・畝立て・は種

(1) 土壌改良資材の施用

完熟堆肥(牛ふん堆肥等)や苦土石灰等を耕起・畝立の 10 日～2 週間前に施用する。この時に耕起は行わない。

(2) 施肥、耕起

- ・耕起直前に化成肥料(専用一発肥料等)、リゾレックス粉剤(20～40kg/10a)、ダイアジノン粒剤5(6kg/10a)をライムソワー等で、圃場全面に均一に散布する。
- ・乾燥が続いている場合は、降雨後にある程度土壌水分を持った状態で耕起する。
- ・耕起は、できるだけ深耕する。

【施肥例】

(単位 : kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥	成分量		
				N	P	K
完熟堆肥	2,000	2,000				
苦土石灰	150	150				
専用一発肥料	100	100		15.0	15.0	15.0
合計				15.0	15.0	15.0

注) 前作が畑作の場合は、残肥を考慮し、「専用一発肥料」を 8.0 kg/10a の施用とする。

(3) 畝立て、は種

- ・ 播種時期 品種 愛紅 7月25日～8月10日
 品種 彩誉 8月10日～8月25日
 ※猛暑日が続く場合は播種しない

- ・ 畝立て、は種作業は、畝立て同時は種機を用いる。
- ・ 畝は、畝幅 150cm、畝高さ 30cm 以上、畝天面の幅 90cm に成形する。
- ・ 畝立の車速はできるだけゆっくりとし、畝形をしっかりと形成する。
- ・ は種機は、条間 20cm、株間 6cm の 5 条播きに設定し、種子は、5 万粒/10a 程度準備する。
 ※ただし、10 月収穫を目標とする場合の 7 月下旬播種は、5 条株間 7cm または 4 条株間 5cm とする。
- ・ 覆土は 5mm～1cm とし、1cm 以上にならないよう播種機の覆土板等で鎮圧されていることを確認する。

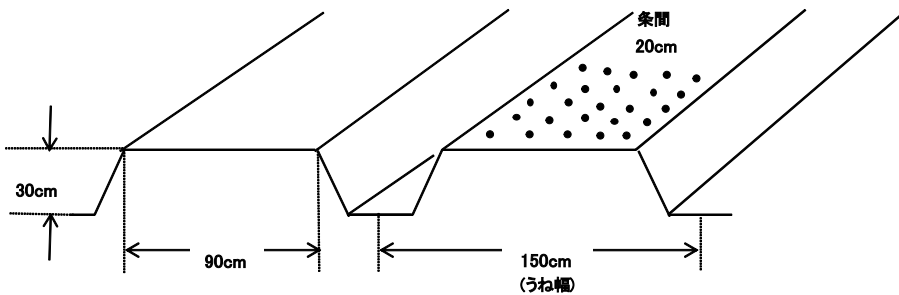


図 畝立・播種機により形成される畝の姿と播種間隔（5 条まき）



写真 畝立て同時は種機

(4) 畝立て後の排水溝の手直し

畝立後はスムーズに排水されるように、必ず、排水溝を掘り、額縁排水溝や排水口へ溝をつなぐ。



写真 排水溝と額縁排水溝、排水口への連結

(5) かん水

- ・は種直後にかん水チューブ等で 20mm を散水する。
2 回目以降は 5mm を散水する
- ・その後発芽まで畝面が乾いたら必ずかん水を実施する。
- ・高温、乾燥時期は、1 日 1～2 回（朝、夕）かん水する。
- ・発芽～本葉 6 葉期までは、乾燥が続く場合、5 日間隔でかん水を実施する。
- ・ただし、除草剤を散布した日はかん水しない。



写真 かん水チューブによる散水

(6) は種後の除草剤散布

- ・は種後の土壌処理除草剤の散布は、は種直後の散水が終了し、水が引いたら速やかに散布する（原則、は種日の翌日）。
- ・除草剤は、**ゴーゴーサン乳剤**（10a あたり水 150ℓに 400ml）を全面散布する。

3 中間管理（除草剤散布）

生育期間中に雑草が発生した場合は、除草剤を散布する。

○広葉雑草対策 ロロックス

【使用量】 150 g /10a（水 150 リットル）を全面散布（1 回のみ）

【使用時期】 にんじん 3～5 葉期 但し、収穫 30 日前まで（雑草発生始期）

※カヤツリグサの発生が多い場合は、展着剤の**サーファクタントWK**（150m l / 散布液 150ℓ）を加用する。

○イネ科雑草対策 ポルトフロアブル

【使用量】 300ml /10a（水 100 リットル）を全面散布（1 回のみ）

【使用時期】 雑草生育期（イネ科雑草 3～8 葉期但し収穫 45 日前まで）

4 収穫、調製、運搬

(1) 収穫

は種後 80 日頃から試し掘りを行い、重さや尻詰りを確認してから、収穫を開始する。

(2) 調製（1 次選別）

岐根（二又）、裂根（割れ）、腐敗等は、収穫せずほ場で廃棄する。

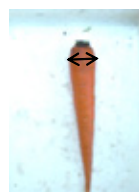
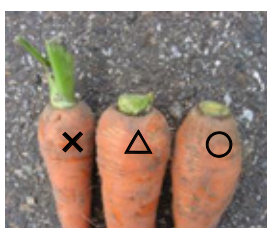
(3) 運搬

収穫後は、速やかに調製施設等へ運搬する。



写真 尻詰りしてから収穫する

葉切りしてないもの 根切りしてないもの 細いもの（根径3cm以下） 奇形（二又等）



ワレの大きいもの



ワレは根長の1/3以内

写真 収穫時に 1 次選別で除去するもの

夏まきにんじん栽培こよみ

7月			8月			9月			10月			11月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ほ場準備 (排水対策・除草剤散布)			は種 7/25~8/25			除草剤散布②			試し掘り			収穫 10/20~11/30		
			土改資材散布											
			施肥											
			殺虫・殺菌剤散布											
			畝立て・は種											
			かん水											
			除草剤散布①											
			排水溝手直し											

1 ほ場準備

(1) 前作残さの腐熟促進等

石灰窒素を10kg/10a (窒素成分で2kg/10a)散布

(2) 雑草の処理

ラウンドアップマックスロード又はバスタ液剤等で枯殺

(3) 排水対策

額縁排水溝と弾丸暗渠の設置



額縁排水溝の設置

弾丸暗渠の設置

2 施肥・耕耘・畝立て・は種

(1) 土壌改良資材の施用

完熟堆肥(牛ふん堆肥等)や苦土石灰等を施用

(2) 施肥、耕耘

化成肥料、リソレックス粉剤(20~40kg/10a)、
ダイアジノン 粒剤5(6kg/10a)を均一に散布

(施肥例)

(単位: kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥	成分量		
				N	P	K
完熟堆肥	2,000	2,000				
苦土石灰	150	150				
専用一発肥料	100	100		15.0	15.0	15.0
合計				15.0	15.0	15.0

(注) 前作が畑作の場合は、残肥を考慮し、「専用一発肥料」を8.0kg/10aの施用とする。

(3) 畝立て・は種

・播種時期 品種 愛紅 7月25日~8月10日
品種 彩雲 8月10日~8月25日

・畝は、畝幅150cm、畝高さ30cm以上、畝天面幅90cmに成形

・は種欄は、条間20cm、株間6cmの5条播きに設定

・種子は、5万粒/10a程度準備

・覆土は5mm~1cmになるよう播種機の覆土板を確認

(4) 畝立て後の排水溝の手直し

畝立て後は排水溝を掘り、額縁排水溝や排水口へ溝を連結



排水溝と額縁排水溝、排水口への連結

(5) かん水

・は種直後にかん水チューブ等で20mmを散水

2回目以降は5mmを散水

・その後発芽まで畝面が乾いたら必ずかん水を実施

・高温、乾燥時期は、1日1~2回(朝、夕)かん水

・発芽~本葉6葉期までは、乾燥が続く場合、5日間隔でかん水を実施

・ただし、除草剤を散布した日はかん水しない。

(6) は種後の除草剤散布

・は種翌日にゴーソーサン乳剤(10aあたり水150ℓに400ml)を全面散布



3 中間管理(除草剤散布)

生育期間中に雑草が発生した場合は、除草剤を散布

○広葉雑草対策 ロロックス

【使用量】 150g/10a(水150ℓ/10a)を全面散布(1回のみ)

【使用時期】 にんじん3~5葉期(但し、収穫30日前まで(雑草発生始期))

※カヤツリグサの発生が多い場合は、展着剤のサーファクタントWK

(150ml/散布液150ℓ)を加用

○イネ科雑草対策 ボルトフロアブル

【使用量】 300ml/10a(水100ℓ/10a)を全面散布(1回のみ)

【使用時期】 雑草生育期(イネ科雑草3~8葉期(但し収穫45日前まで))

4 収穫、調製、運搬

(1) 収穫

は種後80日頃から試し掘りを行い、重さや尻詰りを確認してから、収穫を開始

(2) 調製(1次選別)

岐根(二又)、裂根(害物)、腐敗等は、収穫せずほ場で廃棄

(3) 運搬

収穫後は、速やかに調製施設等へ運搬

葉物野菜の収穫例、葉物野菜の収穫例、葉物野菜の収穫例、葉物野菜の収穫例、葉物野菜の収穫例



7月25日~8月10日